

令和4年度 桜和祭



SHOWA GAKUIN
SINCE 1940

SHOWA GAKUIN

昭和学院中学校・高等学校

昭和学院 広報 第41号 2022.12.23 [金] 発行

〒272-0823 千葉県市川市東菅野2-17-1

TEL 047-323-4171~5 FAX 047-326-5310

<https://www.showa-gkn.ed.jp/js/>

本年度の桜和祭のテーマは、『^{ひやくせつふとう}百折不撓〜^{ガチ}今こそ「本気」れ、新昭和』とし、どんな困難にも臆することなく、今までの形で生徒の思い出になるような桜和祭を復活させる意思を貫き通すことを目標に掲げた。

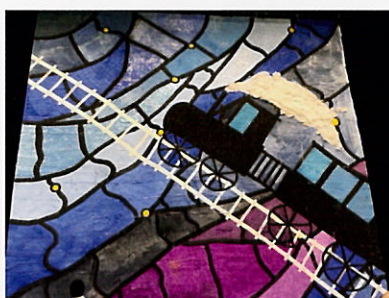
例年のように感染拡大によって直前で中止になるのではないかと不安の声もあったが、どのような状況に対しても臨機応変に対応できるように生徒会、桜和祭実行委員会を中心に計画・準備を進めた。8月に新型コロナウイルス感



染者拡大の影響により、日程の変更や外来者の入場が中止になったものの、ほぼ従来と同じ形で実施できることとなった。しかし従来で開催された桜和祭から3年経っており、生徒の大半が桜和祭未経験。さらに準備時間の短さから、各団体は企画・準備に四苦八苦していた。そのような制限の中で、新型コロナウイルスのリスクを避けながらどのような企画ができるか、お客様に楽しんでもらうためにはどのようにすればよいか、などをクラスごとに考え、工夫して準備を行う姿を見ることができた。桜和祭当日は緑日やお花け屋敷、フォトスポットなど、クラスごとにユニークな企画を実施して

▲クラスの出し物

おり、外来者の入場がなかったものの、各教室で賑わっており、店員として、客としてそれぞれ楽しんでいた。また文化部の発表はメインアリーナ・伊藤記念ホールでの観覧と、宇宙ステーションや廊下などでオンラインでの放映も行った。感染対策のため入場制限が



▲メインアリーナ舞台背景(生徒会製作)



▲外装

しているところから、当初の目標である《今までの形で生徒の思い出になるような桜和祭》ができたのではないかと感じた。

この桜和祭の実現には、生徒を中心とした学校全体の協力なしには実現しないものだった。特に生徒会・桜和祭実行委員は、放課後や夏休み等の貴重な時間を使い、よりよい桜和祭のためにできることを考えていた。オンラインパンフレットやフォームによるチケットの予約、有志や当日発表できなかった団体の発表の場を設けるなど、今までの桜和祭にないシステムをつくることで、より生徒たちを楽しんでもらえるように考えていた。

生徒会長は「コロナ禍という制限の中で、安全で全校生徒が楽しむことのできる桜和祭を作り上げることを目標に先生方はもちろん多くの生徒と取り組んできました。迎えた当日では、多くの生徒が笑顔や感動で涙を流している姿を見て、楽しく充実した学校行事を実現することができたと思いました。」と振り返った。

来年度の状況を予測することはできないが、本年度以上に生徒が楽しむことが出来るような桜和祭を、生徒主体でつくりあげていけるようにしたい。

ある中での発表であったが、多くの生徒が現地にきて観覧し、普段見ることのできない仲間の活躍している姿を楽しそうに見ていた。

2日目の片付けが終わった後、帰宅する生徒たちが「楽しかった」「次はこの企画をしてみたい」と口に



▲書道部の展示



London



高1、高2の希望者を対象にイギリス、ロンドン郊外（イプスウィッチ）で研修が行われた。15時間のフライトを経て、その後3時間のバス移動で生活地であるイプスウィッチの St. Joseph college へようやく到着。初日に生徒たちは疲れを見せていたが、次の日を迎えると顔に輝きを取り戻していた。このプログラムでは昭和学院の生徒の他に、スペイン人学生、フランス人学生が参加していた。英語での授業も含め、午前、午後、夜の3部のアクティビティがあり、朝の8時から夜の10時まで活発に活動に参加した。広い土地と自然を感じながら、異国の学生と交流している姿が印象的であった。一番驚いたことは、国籍問わず生徒たちの環境に順応する能力である。互いに英語を母語としない学生同士の唯一の共通言語は「英語」であり、使える表現を駆使して互いに意思疎通を図っていたのである。これは単に「英語力」だけで達成できるものではなく、1人ひとりの「思いやりのある人間性」があるからだとして強く感じる。参加した17人は全員、コミュニケーションにおける「人間性」の大切さを痛感したと思う。また、自分の当たり前が当たり前ではないという自己を相対化することを、肌で体感したと思う。この経験を、ぜひ今後の学校生活に生かして行ってほしいと切に願う。



▲オックスフォード大学にて

海外語学研修

7.16[土]~7.31[日]

Los Angeles

7.31[日]~8.8[月]



中2・中3の希望者28名は、アメリカ・ロサンゼルス郊外にあるシトラスカレッジを中心とした地域での9日間の研修に参加した。初日にレベル分けテストとキャンパス見学を行い、翌日から午前中は英語のレッスンを受け、午後は周辺に散策に出かけた。少人数のレッスンでは外国人講師の英語だけの授業でリスニングはもちろんのこと、テキストを中心に、生活で使える表現を学んだり、トピックについて意見を交換したり、自分の考えを書いたりすることでリーディングやスピーキング、ライティングの力を強化。午後は世界的に有名なUCLA（カルフォルニア大学ロサンゼルス校）のキャンパス見学、ハリウッド見学、広大なショッピングモールでの買い物などを楽しんだ。移動や外部との連携が制限されてきたこの数年間、生徒たちは「自分の知らない世界に飛び出したい」という挑戦心をずっと心の中に持っていた。今回の海外研修は、そのような生徒たちにとって、やっと外に出て、知らない国で、慣れない言葉で、わからないものを前に自分に何ができるか、自分とは何かを学ぶ機会となった。ものを買う、という単純なことも難しくなる外国で、それらに1つずつ挑戦し、失敗もしながら乗り越えていった生徒たちは、語学力以外にもたくさん学ぶことができた。



▲授業中の風景

Boston

11.5[土]~11.13[日]

高2IAコース海外修学旅行のPioneerとして、B組21名がボストン語学研修に参加した。宿泊地であるHi Bostonというホテルには多様な国籍の方がおり、2階のラウンジで生徒たちは積極的にコミュニケーションを図っていた。午前はハーバードにあるKaplan語学学校に通い、英語レベルに応じたクラスに配属され、異国の学生とともに英語を学んでいた。午後はハーバードビジネススクールの日本人学生と交流、MITのキャンパスツアーなど、生徒たちは目を輝かせながら海外大学の雰囲気を楽しんでいた。特に印象に残ったのは、ハーバードの学生の雑談形式の講話の中にあっ



▲ハーバードブリッジにて

た。また、自分の当たり前が当たり前ではないという自己を相対化することを、肌で体感したと思う。この経験を、ぜひ今後の学校生活に生かして行ってほしいと切に願う。

「何かを成し遂げる原動力は〈〇〇になりたい〉という強い思いである。自分の可能性を信じ、挑戦することである。」という言葉である。ありきたりな言葉に聞こえるかもしれないが、彼の言葉を生徒たちは噛みしめていた。また、もう一人の学生の「これからずっと大切になるのが、〈人間力〉。周りからこのリーダーについていきたいと思われる〈人間力〉である。」という言葉に心を動かされたようだ。自分のことだけでなく、お互いを思いやりながら周囲のために動こうと意識して集団生活を営んでいる姿がみられた。9日間で得たものは、単に楽しい一言では収まらないほど非常に大きいものであったと感じている。



▲ハーバード大学構内にて

エンパワーメントプログラム

The students joined a week long English program that gave them the opportunity to talk with foreigners from around the globe. They could discover more about African countries and the differences from Japan. The students also had a lot of opportunity to discuss in English very important global issues. On the final day, they used



▲1日目のアイスブレイク



▲グループプレゼンテーションに向け

all their new skills to make a speech in English which was a huge success. The students did exceptionally well to study and speak for a week in English. I hope they can remember this for a long time and they continue to study English.

中学3年から高校2年のIAコース及び参加希望生徒は、約1週間のエンパワーメントプログラム（以下EP）に参加しました。EPでは、世界のさまざまな国の人と話す機会がありました。参加した生徒は、アフリカの国々について、これまでより多くのことを知り、日本との違いについても知ることができました。また彼らは、国際問題を英語で議論する機会も数多く得ました。EP最終日には、参加した生徒は新たに習ったことを駆使して、英語でスピーチを行い、大きな成功を収めました。彼らは一週間を通じ、非常によく英語で学び、英語を話していました。参加した生徒たちはこの夏に得た機会を今後も忘れずに、英語を学習し続けてもらえればと思います。



▲最終プレゼンテーションの準備中

令和4年度全国高等学校総合体育大会 結果

新体操部

優勝



中川 結己奈(高3)・平井 沙樹(高3)
林 麻愛(高3)・太田 詩月(高2)
渋谷 美緒(高1)・竹高 朱莉(高2)
高橋 留奈(高3)・木村 美花(高1)

塩屋 恵美子先生

新体操部は8月12日(金)~14日(日)、香川県高松市総合体育館で開催されたインターハイに出場しました。団体競技の演技順が45チーム中・5番と大変早くコンディションを整えることが大変でしたが、納得の演技で優勝することが出来ました。

今年のテーマである『生存者』という物語を伝えるために、技術力だけではなく表現力に磨きをかけて諦めずに取り組んできました。緊張の本番で伝えたい演技をいつも通りに出し切れた選手たちは本当に強かったです。部員全員で掴んだ全国制覇は選手たちを更なるステージに押し上げてくれたと思います。また、沢山の方々を支えて頂き応援していただけたことに感謝して更に成長できるよう励みたいと思います。

女子ハンドボール部

優勝



赤松 理江(高3)・牧 彩音(高3)
弥吉 珠花(高3)・加藤 真央(高1)
東 瑚華(高3)・石坂 美紀(高3)
水谷 美海(高3)・湯浅 栞奈(高3)
吉田 心(高2)・中村 真心(高1)
伊澤 梨華(高3)・堀内 雪羽(高2)
齋藤 史歩(高1)・赤橋 愛未(高2)

佐藤 奏吉先生

ハンドボール競技は7月29日(金)~8月4日(木)、愛媛県松山市を中心に開催されました。直近の大きな大会で敗れているチームとの連戦で苦しい状況ばかりでしたが絶対的なエースがいない分3年生を中心にチームが結束し、自分たちのハンドボールを泥臭く最後まで出し切れたことが連日の逆転勝利につながりました。今年のチームは新チーム発足時から経験値が少なく、自分たちの力をなかなか発揮できず悔しい思いをしてきました。しかし、土壇場でチーム力がピークに達し、インターハイ初優勝という悲願を達成することができました。これからもたくさんのサポートや応援に感謝し、自分たちのハンドボールを追求しながら更なる高みを目指し、精進していきたいです。

水泳部

関谷 直樹先生



笹生 舞琳(高3)
100m背泳ぎ
第3位
鵜田 未来(高3)
100mバタフライ
第7位

自転車競技同好会

大坪 正典先生

個人スプリント **ベスト12**
宮崎 太志(高2)



体操競技部

団体総合 **第10位**



小野 恭子(高3)
新谷 麻哩(高1)
西田 采永(高1)
山本 南美(高1)
吉本 結(高2)
根本 花菜(高2)

中島 恵美子先生



西田 采永(高1)
個人総合
第9位

女子ソフトテニス部

団体 **ベスト16**

西山 なつみ(高3)・大野 栞(高3)
小川 ことみ(高3)・鈴木 叶(高3)
藤本 朱里(高3)・多田 真也果(高3)
渡辺 莉央(高2)・服部 七海(高1)
吉田 光希(高2)・稲葉 あこ(高1)



高橋 章典先生

個人 **ベスト16**

鈴木 叶(高3)
小川 ことみ(高3) ペア



男子ソフトテニス部

山岡 翔平先生

個人 **ベスト64**

河村 颯希・大竹 公陽 ペア
(高2) (高2)



全国中学校体育大会 他

新体操部

塩屋 恵美子先生

団体 **第4位**

杉井 千和(中3)・村山 梨花(中2)
福田 杏南(中2)・鈴木 瑠夏(中2)
池畑 杏(中1)・高橋 ひなた(中2)
藤江 杏名(中2)・藤田 優笑(中1)



ソフトテニス部

高原 良江先生

女子個人 **ベスト32**
篠 未奈美・平野 帆乃花
(中3) (中3)



水泳部

渡辺 基子先生

女子100mバタフライ
第11位
大住 煌華(中3)



空手同好会

飯野 誠也先生

第30回全国中学生
空手道選手権大会
個人形 **ベスト32**
根津 暦実(中3)



ジュニアパンパシフィック選手権

8.24[水]~27[土] アメリカ合衆国ハワイ州



目標を掲げる
伊東開耶さん(高1)

伊東さんは、4月下旬に行われた日本選手権で日本代表選手(37名)に選ばれ今大会に出場しました。また、9月に行われた国体(会期前競技)においても見事な成績を収め活躍しています。伊東さんは、次のように大会を振り返りました。

- ・50m自由形 **第8位**
- ・混合メドレーリレー **第3位**
(第4泳者・自由形)

日本ジュニア代表として参加した初めての国際大会、ジュニアパンパシフィック。前日までとても調子が良く、あまり緊張もしていなかったがレースが始まるといつものように泳ぐことが出来なかった。この大会に向けて、誰よりも練習してきたが、まだまだ練習不足だったのかもしれない。回りの人と比べたり、国内で満足していたりしてはいけない。スタート台に立った時には半分以上勝負は終わっているので、世界の舞台で勝つための練習をしようと決意した。



混合メドレーリレー表彰式後

第77回 国民体育大会「いちご一会とちぎ国体(少年女子・男子)」

水泳(競泳)



祝2冠達成!

- 伊東 開耶(高1) 50m自由形 **第1位**(少年B)、100m自由形 **第1位**(少年B)
- 伊東 開耶(高1)・川俣 紘(高1) 4×100mフリーリレー **第4位**(少年B)
- 笹生 舞琳(高3) 200m背泳ぎ **第8位**(少年A)
- 4×100mメドレーリレー **第8位**(少年A)
- 伊東 開耶(高1)・大住 煌華(中3) 4×100mメドレーリレー **第7位**(少年A)

新体操

総合 **第5位**

- 中川 結己奈(高3)・林 麻愛(高3)
- 太田 詩月(高2)・竹高 朱莉(高2)
- 渋谷 美緒(高1)・平井 沙樹(高3)
- 高橋 留奈(高3)

体操競技



団体総合
第5位
西田 采永
(高1)

ソフトテニス(男子)

総合 **第4位**
大竹 公陽(高2)



ハンドボール(男子)

総合 **第4位**

- 小柴 創(高3)・長濱 拓真(高3)
- 篠塚 善(高3)・今井 大地(高3)
- 松蔭 優晴(高3)・結城 颯太(高3)
- 大木 星蓮(高2)



ハンドボール(女子)

総合 **第4位**

- 加藤 真央(高1)・東 瑚華(高3)・石坂 美紀(高3)
- 水谷 美海(高3)・湯浅 葉奈(高3)・吉田 心(高2)
- 中村 真心(高1)・伊澤 梨華(高3)・堀内 雪羽(高2)
- 齋藤 史歩(高1)・赤橋 愛未(高2)



ソフトテニス(女子)

団体 **ベスト32**

- 西山 なつみ(高3)・大野 葉(高3)
- 小川 ことみ(高3)・鈴木 叶(高3)
- 多田 真也果(高3)・渡辺 莉央(高2)
- 稲葉 あこ(高1)・服部 七海(高1)



吹奏楽部



▲第22回東日本学校吹奏楽部大会出場メンバー

私たち吹奏楽部は、10月9日(日)に東京都で開催された第22回東日本学校吹奏楽大会に初出場しました。本年度は千葉県予選、本選大会と順調に勝ち進み、9月に水戸市で行われた東関東吹奏楽コンクールに出場しました。東関東代表枠は毎年3枠と非常に狭き門であり、これまでも代表校は常に僅差で代表枠を勝ち取って行きました。どれだけ良い演奏ができたとしても結果発表まで結果は読めません。代表校は出演順で呼ばれます。代表校2校が発表され、その時点で昭和学院は呼ばれていませんでした。また、過去に東日本を経験している学校も3団体(全て千葉県代表)残っていました。そして、ついに最後の代表校発表が始まり「千葉県代表…」会場の雰囲気緊張のピークに達し、「昭和学院高等学校」と呼ばれ会場からは拍手が起きました。部員たちも東関東代表枠を掴み切り、最高の表情をしていました。東日本大会では千葉県代表として、東関東代表して堂々とステージに立つことが出来ました。結果は金賞を受賞することができ、最高の形で本年度の吹奏コンクールを終えることが出来ました。

芸術鑑賞会



▲中学校鑑賞(左)、高校鑑賞(右)チラシ
 やすかったようだ。今回の作品は、人間とバケモノの「親子」が絆を深め、助け合いながら共に成長していく希望の物語である。生徒たちからは、「映画とは少し展開が違ったが、劇団四季が作り出す世界観に躍動感を感じた。」「昨年のアラジンとはまた違う雰囲気を楽しめた。」「初めて劇団四季を観て感動した。」「後半はとにかく感動的で、涙が止まらなかった。」と言う感想が寄せられた。中学生は多くのことを感じた鑑賞会になったようだ。

本年度の芸術鑑賞会は、中高共に11月10日(木)に実施された。中学校は劇団四季の「バケモノの子」(JR東日本四季劇場[秋]浜松町・竹芝)を鑑賞した。ほとんどの生徒が物語を知っているため、作品には入りやすかったようだ。今回の作品は、人間とバケモノの「親子」が絆を深め、助け合いながら共に成長していく希望の物語である。生徒たちからは、「映画とは少し展開が違ったが、劇団四季が作り出す世界観に躍動感を感じた。」「昨年のアラジンとはまた違う雰囲気を楽しめた。」「初めて劇団四季を観て感動した。」「後半はとにかく感動的で、涙が止まらなかった。」と言う感想が寄せられた。中学生は多くのことを感じた鑑賞会になったようだ。



▲入場する中学生



▲舞浜アンフィシアター外観

高校生は劇団四季の「美女と野獣」(舞浜アンフィシアター千葉・舞浜)を鑑賞した。開幕直後と言うこともあり、ニュースでも取り上げられる程の注目度の高い作品である。また、会場も以前はシルクドソレイユが公演をしていた会場で、空間にゆとりを感じた。生徒たちからは、「ニュースでも見たが、ベルの衣装の刺繍が凄かった。」「演出が本当に感動的だった。」「チケットを取ろうと思っていたが、3月まで完売だったため、今回見れて本当に嬉しかった。」「とにかく感動した。」などの感想を聞くことが出来た。

芸術鑑賞会は来年度も校外で実施されることが決定している。学校で実施していた時と比べると、生徒たちの反応がとても良いと感じている。来年度は中高共に、TBS開局70周年記念の舞台「ハリリー・ポッターと呪いの子」(J.K.ローリング)をTBS赤坂ACTシアターで鑑賞する。舞台鑑賞でしか味わえない生の臨場感を体験し楽しんで欲しい。



▲入場する高校生

スピーチコンテスト



▲野澤さん、渡邊さん、椎野さん

中学校 市川市内大会

中1	暗唱部門	2位	野澤さとみ
中2	暗唱部門	優勝	渡邊 莉弥
中3	暗唱部門	優勝	椎野愛実音

中学校市川市内大会で2部門の優勝は、本校始まって以来の快挙である。尚、新型コロナウイルス感染防止の観点から、今年度は千葉県大会の暗唱部門は実施されていない。

9月8日(木)全日警ホールに於いて、令和4年度中学校英語発表会が開催された。本校からは各学年の暗唱部門に、6月に行われた校内スピーチコンテストで優勝した3名が出場した。

10月5日(水)市川市文学ミュージアムグリーンスタジオに於いて、令和4年度千葉県高等学校生徒英語研究発表大会市川地区大会が開催された。本校からは、6月に行われた校内スピーチコンテストで優秀な成績を収めた4名が出場した。優勝した宮崎さんと竹村さんは、県大会に駒をすすめた。

高等学校 市川市内大会

高1	朗読部門	優勝	宮崎 琴音
	暗唱部門	3位	大杉 舞
高2・3	暗唱部門	優勝	竹村 季
全学年	スピーチ部門	出場	山縣 杏



▲竹村さん、山縣さん、宮崎さん、大杉さん

高等学校 千葉県大会



▲竹村さん

10月25日(火)千葉県文化会館小ホールに於いて、第73回千葉県高等学校生徒英語研究発表大会が開催された。

高2・3暗唱部門は、昨年度も本校の生徒が優勝しており、2年連続の入賞は喜ばしいことである。

高2・3	暗唱部門	2位	竹村 季
高1	朗読部門	出場	宮崎 琴音
(高1朗読部門は録音媒体による審査)			



全校一斉朝の読書

11月14日(月)~19日(土)まで「全校一斉朝の読書」が実施された。朝の読書の目標は、

- ①読書に親しみ、生涯にわたって読書を楽しむ生活習慣を確立する。
- ②全教科の基礎となる読解力を身につけ、知識教養を高め人格形成に寄与する。
- ③落ち着いた環境で一日をスタートする。

の3点である。今回もわずか1週間であったが、読書の習慣のきっかけになったと思う。「デジタルで読む脳」が主流になりつつある現代でも「紙の本で読む脳」の大切さを感じてほしい。



▲熱心に読書に励む生徒たち

生徒会活動

この数年にわたるコロナ禍での学校行事は、中止や縮小という現実と直面してきました。最近少しずつ行事の制限が緩和されてきましたが、その中で令和4年1月より発足した、会長鍋田権君率いる新生徒会役員が誕生しました。

この数年の状況から生徒会は様々なアイデアを出してきました。桜和祭も今年度、無観客とはいえ各クラス活動を復活させました。また画期的だったのは、生徒会選挙の演説を動画配信にして投票をデジタル化したことにより、各クラスで投票可能にしたことで感染防止にも繋がりました。来年1月からの新生徒会も『新しい景色』をきっと見せてくれることでしょう。

奨学会だより

文化講演会 「世界を知って自分を知る～次代を担う人材に必要な『力』とは～」



▲田原総一郎氏

11月5日(土)、3年ぶりに奨学会文化教養部主催の文化講演会が開催された。メインアリーナには生徒・保護者限定500名が参加し、他の生徒はオンラインで教室から視聴した。

今年の講演会は、ジャーナリストの田原総一郎さん、元駐米大使の藤崎一郎さん、環境活動家の露木志奈さんという豪華メンバーによる三者対談が実現した。

テーマは「世界を知って自分を知る～次代を担う人材に必要な『力』とは～」。根本奨学会会長の挨拶に始まり、次にゲストが登場。最初それぞれにお話をいただいた。田原さんは小学5年生のとき終戦を迎えたが、その前後で大人の言うことが180度変わった経験から、「世界で何が起きているかを正しく知り自分で考えることが大事だ」と語られた。藤崎さんは「学生時代たくさん本を読んだことが、後でとても役に立った。なるべく高いハードルを飛んだ方がいい」というお話。露木さんは、グリーンスクールというインドネシアの世界一エコな高校に通った。生徒たちには、「何か行動するのに大人になるまで待たなくていい」というお話があった。そして田原さんの質問をきっかけに対談がスタートした。SNSなど多くの情報が飛び交う今の時代、何を信じればいいのか?という話題では、「記事を書いた人に都合の良い内容になって



▲藤崎一郎氏

いると、承知しておくこと。疑うこと。」「心理と歴史を知ることが判断の助けになる」とアドバイスくださった。また、留学について田原さんは「若いうちに海外を知った方がいい。国際会議で発言できない日本人が沢山いる」と語られた。それを受けて藤崎さんは「日本人はすぐ正しい答えを求めるが、周りを気にせず質問に手が挙げられるといい」、露木さんも「世の中には答えのない問題がたくさんある。でも向き合わないといけない」と話された。最後に、司会から生徒へ「質問ありますか?」の問いかけに、堂々と質問する生徒が次々と現れた。そして、その質問にゲストがそれぞれの視点から丁寧に答えてくださり、話が大きく膨らんだ。



▲露木志奈氏

田原さんは、メインアリーナに参加した生徒全員に黒柳徹子さんとの対談本『トットちゃんとソウくん戦争』をプレゼントしてくださった。大井校長の講評の後、花束贈呈、全員で記念写真を撮り全体会は終了した。このあと田原さんと藤崎さんは教室まで足を運ばれ、短時間ではあるがさらに生徒たちと交流を深めた。中1からは「自分で考える力って大事なんだ」「3人の意見が違って面白かった」などの感想がでた。どんな捉え方でもいい。将来の糧になってくれることを期待する。



全員で記念撮影

活動の様子

－私学振興大会－



▲私学振興大会の様子

10月8日(土)、幕張メッセ国際会議場において、第19回「千葉県私学振興大会」～私学教育を考える集い～が開催されました。本年もコロナ禍で参加人数などの制限がある中での開催でしたが、熊谷俊人千葉県知事をはじめ、千葉県選出の多くの衆参国會議員、県議會議員の方々が登場され、知事や協会会長、保護者代表、議員代表の皆様からご挨拶をいただきました。

また、スポーツの全国大会で活躍した優秀選手紹介では、四国総体等で優勝した代表選手紹介があり、本校からは新体操とハンドボールが紹介されました。代表してハンドボール部の星野友利さんが参加者の前で優勝校として堂々と挨拶をしました。

千葉県の私立学校は、それぞれ建学の精神と独自の教育理念のもと、特色ある先駆的な教育を実践していますが、保護者の教育費負担については、公立との大きな格差が存在しています。この現状を訴えるとともに、補助金等財政支援を拡充し、公立・私立の区別なく将来を担う子供たちに学校選択の自由が十分に保障され「教育立県ちば」の教育振興が図られることを願い、決議案を採決し閉会いたしました。



▲出席された理事の皆さま

－桜和祭への協力－



▲ワークショップの様子

9月16日(金)、17日(土)の2日間桜和祭が実施され、奨学会総務部は3年ぶりにワークショップ「ミサンガ製作」を開催しました。開始時間と同時に男子生徒が来てくれたことを皮切りに多くの生徒たちが会場に足を運んでくれました。男子はピンク系の配色を女子はクール系の配色を選ぶことが多く、会場は常に大賑わいでした。久々のワークショップ開催となりましたが、役員一同楽しんで桜和祭に参加をしました。また、奨学会常任理事がメインアリーナなどの会場の消毒作業に協力をしました。コロナ禍で保護者の行事参加が難しい中で生徒の熱気を直接感じることができ、充実した2日間となりました。

－学校周辺の美化作業－



▲市道にて

11月19日(土)、12月3日(土)の両日、午前10時から11時過ぎまで、延べ170名の奨学会理事の皆さまにご協力いただき、学校周辺の美化作業を行いました。当日は冷たい風が吹きすさぶなかでの作業になりました。思いのほか落ち葉が多く、毎回100袋以上の落ち葉を集めました。この作業も2020年の8月から、通学路清掃という形で始めて早3年目になります。本校のみならず、地域の皆さまにも貢献する事業になっています。

最後になりましたが、ご多忙の折柄にも関わらず、ご協力いただいた理事の皆さまには厚く御礼申し上げます。



▲オープンスペースにて